

《こどもの健康》横浜発! で公明党が主導し 昨年後半における3つの前進!



建築・都市整備・道路委員会委員
横浜まちづくり特別委員会委員

港南区選出

安西ひでとし

●ご意見・ご相談はお気軽に

TEL 671-3023

〔ホームページ〕

http://anzai-hidetoshi.com/

不妊症 月約5万円のへパリンカルシウム 注射薬が保険適用に!

不妊症の発症者は年約3万人。胎盤や子宮に血栓ができる胎児に栄養が届きにくくなる。血栓ができやすい体質が原因とみられる不妊症患者は全体の約25%。不妊症予防のへパリンは1日2回の注射。自宅で打つのが一般的。保険適用外で月5万円でしたが、12月20日保険適用が決定されました。



また、昨年の9月、12月の一般質問で不妊症についての助成や、患者への精神的支援策について尋ねました。その結果、林市長は助産師などによる相談窓口を各区の福祉保健センターに設置することや、専門医による相談体制についても調整すると明言しました。

胆道閉鎖症 4月から母子手帳にカラー カード挿入決定!

肝臓から腸につながる胆管に原因不明の炎症が起き、胆汁をうまく出すことができなくなる病気が、赤ちゃんの約1万人に1人の割合で発症する。発症した場合、生後60日以内に手術をすれば10年生存率が72%だが、手術が遅れると生存率は一気に下が

り、生後120日を過ぎると0%になるとされる病気。それだけに早期発見、早期手術が重要となります。早期発見のために赤ちゃんの便の色をカラーカードでご両親が簡単に判断できる方法があります。

横浜市では、国の試験事業の一環として昨年からのカラーカード配布をスタートしているが、厚労省は昨年末に、今春4月に全国で改定される母子手帳にカラーカード差し込みを決定しました。これも私どもが、多くのお母さまから頂いた声を横浜の発信で全国施策として実現したものです。

アレルギー対策 エピペン注射保険適用実現!

昨年、9月22日からアナフィラキシーショックに対処するための自己注射エピペン(元々1万2千円から1万5千円)の保険適用を実現。花粉症、食物アレルギー等々、国民の3人に一人は何らかのアレルギーを持っていると言われる。アレルギー問題は国民的な課題。公明党はこの問題への対処で先頭に立って働いている。

例えば、こどものアレルギー対策。特に横浜は全国のアレルギー対策の電源地でもあり、横浜に本部のある「アレルギーを考える母の会」の皆さんなどとも活動を推進。その結果のひとつが昨年9月22日のアナフィラキシーショック対策のためのエピペン注射の保険適用です。



芹が谷地域ケアプラザ開所

2010年の国勢調査によると、港南区の65歳以上人口は4万9132人、区内人口の22.2%を占めるなど高齢化が進んでいます。

また、一人暮らし高齢者も増えています。これは近親者の支えや介護の支援がない人が増えているということです。この問題には新たな行政サービスを提供していく必要があります。

そんな状況の中で、福祉保健活動の拠点となる芹が谷地域ケアプラザが1月24日に開所。公明党として2008年から予算要望してきましたので、うれしいニュースです。また、日限山地域ケアプラザに関しても、早期建設を要望しています。



港南区 新年賀詞交歓会にて



高橋みのる県会議員とともに



横浜市コールセンター

～便利な暮らしの情報ガイド～

●時間 / 8:00～21:00 (土・日・祝日を含む毎日)



Tel.045-664-2525

Fax.045-664-2828

●Eメール / callcenter@city.yokohama.jp